

前 奏 黙想	祈 禱
讃美歌 68 父なるみかみに	讃美歌 276 ひかりとやみとの
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 119:130~131	黙 禱
エフェソの信徒への手紙 5:8	主の祈り 564
讃美歌 494 わが行くみち	頌 栄 539 あめつちこぞりて
説 教 『光と戒め』	祝 禱 後 奏

「御言葉が開かれると光が射し出で、無知な者にも光を与えます。わたしは口を大きく開き、渴望しています。あなたの戒めを慕い求めます(詩編 119:130~131)」。119編は長大な詩で全 176 節もある。長い詩篇は、全体を見渡しながらか特定の聖句に焦点を絞ると、その「意味」がにじみ出て来る。

御言葉は光として「無知な者」にも与えられる。無知な者とは、文盲や学なき者というより、「愚かな者」。人間の罪は「愚かさ」を伴い、そんな愚かさにも光が届く、というニュアンスか。続く神の「戒めを慕い求め、渴望している」とは、実際どういうことか。「戒め」や「掟」、「決まり事」とか言われると、私などは反射的に拒絶してしまいが、昔のヘブライ人は堅苦しいのが嫌じゃなかったのか。

「わたしはあなたの戒めを愛し、それを楽しみとします(119:47)」。おいおい、そのなのか。いや私が想像している「戒め」とは違うのかもしれない。神の戒めは、私に代わって為される「贖い」、新たな「命」となるもの(119:154)。そんな戒めが愚かな私たちに向かって、御言葉として開かれ、光として注がれる(119:130)。「あなたの御言葉は、私の道の光、わたしの歩みを照らす灯(119:105)」。「主よ、御言葉の通り、命を得させてください(119:107)」。この詩を見渡してみると、御言葉と光、戒めと命がたっぷり注がれていることが分かる。私たちの愚かさに光が射し、罪が清められていく感じがする。

「あなたがたは、以前には暗闇だったが、今は主に結ばれて、光となっている。光の子として歩みなさい(エフェ5:8)」。暗闇とは、詩編が語る罪の「愚かさ」と重ねてもいい。私たちは以前「愚かさ」に閉じ込められていた。「だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい(5:17)」。今は「光となっている」。ゆえに「光の子」として歩めるはずだ、と(5:8)。私が光の子だなんてとんでもない、という逃げ腰と愚かな謙遜は、かえって傲慢だ。「今は主に結ばれている(5:8)」のだから。

「イエスは～民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じにならねばならなかった(ヘブライ 2:17)」。その結末が十字架。つまりこの同じ地平で、私たちは「主に結ばれ、光となっている(エフェ5:8)」。私たちはここで、「光の子として歩む」。光は私たちにとっての「戒め」と言うか、誇りある役割。これは義務ではない。戒めを「愛し、楽しみにする(詩編 119:47)」私たちになっている状態だ。愚かさに閉じ込められていた以前の自分を思えば、この自由な戒めに息苦しさを覚えることはないはずだ。

以前の私たちは「無知な者で、口を大きく開き、渴望し、神の戒めを慕い求めていた(119:131)」。そんな私たちに「御言葉が開かれると光が射し出でた(119:130)」。十字架を「御言葉が開かれる」と言い換えてもいいだろう。十字架からの光が無ければ、私たちの日々は暗闇のままだ(エフェ5:8)。しかし十字架によって「御言葉が開かれ、光が射し出で」、「今は主に結ばれて、光となっている」。

「光の子として歩む」と決意しても、馬脚を露すんじゃないか、メッキが剥がれるんじゃないかと恐れる。けども私たちは、信仰の経験を積んで「以前の暗闇」から逃れたわけじゃない。ただ「主に結ばれて、光となっている」私たちなのだ。だから大丈夫、光源はあくまで主なるキリスト。

御言葉を通じない、と伝道の不振を歎くこともあろう。だが御言葉は人間の「愚かさ」に光を与える(詩編 119:130)。私たちはただそれを反射させればよい。乱反射しても意味がある。朝露のように。

光は世にあって訥々と乱反射している 天からの光を直接反射させる宣教がある 地の光もあろう  
愚かさとなった光を反射させることも 御言葉の光は陰影を伴って静かに輝いている 落ち着いて

9/18(水)1:00~3:00 教会カフェ(1:30~2:00 聖書のお話し)。9/21(土)1:30~3:30 メディカルカフェ。  
牧師の動き:9/20(金)午後教誨師研修会(甲府刑務所)。同日夜は山梨ダルク支援会の運営委員会。

礼拝堂・集会所の住所:408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ:408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。